



SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94  
七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

# 情熱の国で本物に触れた9日間 設立5周年記念事業「スペイン美術紀行」を実施

## 友の会会員 二十八名が参加

すでにご案内のとおり鷹山宇一記念美術館友の会では設立五周年を記念する特別研修事業として「スペイン・パリ美術紀行」を企画し、参加者を募り準備を進めてまいりました。その結果、県内各地より友の会会員総勢二十八名のご参加をいただき、研修団を組織し西暦2000年一月十九日の朝、おおぜいの方の見送りを受けながらはじめての海外研修旅行として太陽と情熱の国に向け出発いたしました。

そもそも鷹山宇一記念美術館は、開館の翌年にアートディレクター北川フラム氏より寄贈いただいたスペイン陶器を常設展示するスペイン民芸資料館をオープンし、同時にスペイン現代美術展としてエステル・アルバルダネ、ホセ・エルナンデス二人展を開催し、また平成十年にはスペイン大使館の後援をいただき「アントニ・ガウディ展」を開催し内外から大きな反響を得るなど、スペイン美術とのかかわりは以前より浅からぬものがありました。

したがって設立五周年の節目の年にこのあこがれの国を訪れてみることは、当時から関係者の念願でありました。今回の研修旅行はこのような趣旨をふまえて一般の観光は最小限にとどめ、できる限りスペインの芸術に触れることのできるよう極力余裕のとれる行程といたしました。宿泊はバルセロナとマドリードの二都市だけで、じっくりと美術館や文化遺産をまわり本物の美術に浸ろうという目論見で計画をたてました。



懐かしい？ グエル公園にて記念撮影

成田発のエアフランス機に搭乗しパリのシャルル・ドゴール空港で乗り替え、まずカタルーニャ地方の中心都市でスペイン第二の人口を持つバルセロナ市に到着します。ここではスペインを代表する現代美術の巨匠、パブロ・ピカソ、ホアン・ミロ、サルバドール・ダリのそれぞれの美術館を訪れ代表的な作品をじっくりと鑑賞いたしました。ピカソ美術館は貿易会社の事務所として使われていた中世の古い館を改装したもので、少年時代の作品が数多

く展示され変貌を重ねた芸術家の原点に触れる思いがしました。ミロの美術館はバルセロナオリピックの主会場となったモンジュイックの丘の中腹にあり、彼の作品と同じく陽光にあふれる環境の中でたくさんの子供達が遊んでいたのが印象的でした。ダリ的美術館はバルセロナ近郊のフイゲラスという町の劇場を改装したもので、彼は生前よりその環境を生かした展示を工夫していたそうです。美術館の地下には夫人与共に眠る彼の墓があり、今でも創作活動が行われているような気さえしました。

また鷹山美術館で開催された「アントニ・ガウディ展」で触れたサグラダ・ファミリア教会やグエル公園・グエル邸などガウディの代表的な建築物をじかに見ることで改めて感激いたしました。

首都マドリードではプラド美術館を中心にエル・グレコ（聖三位一体）「胸に手を当てた貴族」など、ディエゴ・ベラスケス（ラス・メニーナス（侍女たち）「マルガリータ王女」など）、フランシスコ・ゴヤ（「着衣のマハ」「裸のマハ」マドリード五月二日・五月三日）などの多くの有名な作品を鑑賞しました。他にもルーベ

ンス、ファン・ダイク、ブリュッセルなどの作品も多数鑑賞することができました。

忘れられないのはようやく故国に戻ったピカソの「ゲルニカ」(ソフィア王妃美術センター)で、この歴史的大作に接した感動は永く忘れられないと思います。

さらに、バルセロナ周辺のモンセラット修道院やマドリドの王宮、近郊の古都トレド(町全体が世界遺産に指定されている)を訪れる機会がありました。カトリック教会とスペイン王室と芸術との関係は非常に深いものがありいろいろと学ぶものがありました。

今回はせっつかくの海外での研修の機会を有効に生かしたいということで、大半の参加者がパリへの追加ツアーを利用してルーブル美術館やオルセー美術館まで向かわれたようです。

その結果多い人は十カ所以上もの美術館・博物館をまわったことになり、数多くの名作に接してさすがに精神的な疲労を感じた方もいたようです。

日にはパリ滞在組も無事に帰国して、参加者全員が貴重な経験を積むことができました。

以上紙上を借りてご報告申し上げます。

研修旅行団長 山本洋一  
(友の会会長)

## 中世と現代の交差点

# VIVA!

# ESPAÑA!

美術館工房に旅行中収集した資料を展示しております。  
ご来館の際にどうぞご覧下さい。



フィケラスのサルバドール・ダリ美術館にて



モンジュイックの丘のミロ美術館のオブジェ



世界遺産指定の古都トレド



プラド美術館ゴヤの像の前で

# 平成12年度 特別企画展

本年度も  
鷹山宇一記念美術館へ  
どうぞ来館ください

## ■春季二科展■

### ■二科会青森支部展■

4月29日(土)→5月28日(日)

### ■青森県/美術館10周年展■

7月1日(土)→7月9日(日)

### ■手塚治虫の世界展■

7月20日(木・祝)→8月31日(木)

### ■小倉遊亀展(仮称)■

9月15日(金・祝)→10月15日(日)

### ■鷹山宇一展・一周忌を偲んで■

10月21日(土)→11月12日(日)

### ■第60回国際写真サロン展■

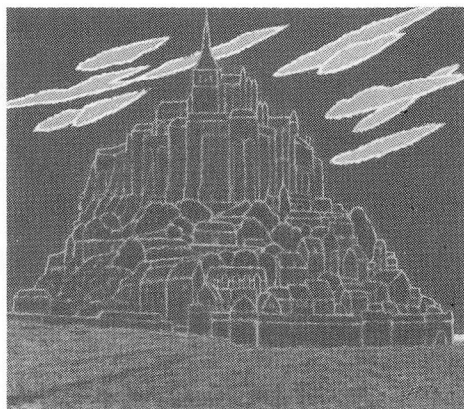
11月18日(土)→12月3日(日)

## ◆ボランティアスタッフを募集します◆

美術館にご来館の皆さんが、気持ち良く作品に親しんでいただけるよう、美術館の環境づくりにご協力いただけるスタッフを募集します。特に、多くの来館者が見込まれる企画展では、職員のみも万全に行き届かず、皆さんのご協力なくして良い環境づくりはできません。

まずは、企画展第1段として『春季二科展』からお願いします。来館者と展示作品の安全を守るお仕事です。興味のある方、詳しく知りたい方、どうぞお気軽に美術館(TEL0176-62-5858)迄お問い合わせ下さい。基本的には、ご都合の良い日で、時間帯は、丸1日(10:00~17:00)、午前(10:00~13:00)、午後(13:00~17:00)の3パターンで、と考えておりますが、これ以外のご都合の良い時間帯でも結構です。ご協力をよろしくお願いいたします。

## ■春季二科展／二科会青森支部展



(社)二科会が主催する『春季二科展』は、「造形上の実験的創造に挑んで」を目的として制作された、円熟味を増した二科会会員による新作の展覧会です。その移動展である当館開催の本展は、中央でも活躍している二科会絵画部、彫刻部会員の作品はもちろんのこと、二科会青森支部に所属する、青森県在住の地元作家の作品を併せてご紹介いたします。《会期中無休》

## ■青森県美術館10周年展

青森県は「総合芸術パーク」の整備を決定し、その中核施設として位置付けられる県立美術館の開館に向け準備を進めているところですが、同時に、美術資料の収集活動も行われてきました。本展は、新収蔵作品を中心に、県がこれまでに取得した美術資料を、広く県民に紹介しようというものです。

## ■手塚治虫の世界展

日本が世界に誇る偉大なマンガ家であり、日本のストーリーマンガと連続アニメーションの創始者、手塚治虫。鉄腕アトム、ブラックジャック、ジャングル大帝、火の鳥など、その作品はSF、歴史、動物、怪奇、冒険など驚くほどバラエティに富み、いつの時代になってもあせることなく、世代を越えて多くの人々に愛されています。数々の作品や登場するキャラクターたちは、私たちに愛と勇氣、夢や希望を与えてくれました。しかし、彼が私たちに与えてくれたものはこれだけではありません。すべての作品の根底には「手塚哲学」とも言える様々なテーマがあるように思われます。

懐かしいアトムに会いに来ませんか?是非この夏休みにファミリーでお出かけ下さい。

## ■小倉遊亀展(仮称)

日本画壇最高峰の女流画家・小倉遊亀は、1895年滋賀県大津市に生まれました。奈良女子高等師範学校卒業後教職に就きますが、日頃から尊敬していた日本画家・安田靉彦に入門。1932年には女性として初めて日本美術院同人となり、76年日本芸術院会員、78年文化功労者、そして80年には文化勲章を受章、現在は日本美術院名誉理事長としても活躍されています。その清々しい画風もさることながら、師・安田靉彦から『北鎌倉の特産物』と称されるほどに優れた静物画も多く、数々の作品からは、画家の温かみと愛情とを感じずにはいられません。

## ■第60回国際写真サロン展

全日本写真連盟と朝日新聞社が主催する伝統ある写真コンテスト・国際写真サロン。本展は、プロ・アマ、そして国籍を問わず参加できるこのコンテストの入賞作品約130点を全国巡回するものです。風景や人物、建物など「写真表現の限らない可能性に挑戦して」撮影された、様々な国のカメラマンたちによる作品をご紹介します。

本展のポスター・チケットを飾る  
赤羽恒男「モン・サンミッシェル」

友の会会員の皆様には、特典  
「おごい入館いただけませぬ。」

# 銅版画の様々な技法が生まれるまで

～銅版画の技法と刷りのワークショップ～

## PART III

### 受講者5名が7777技法に挑戦!!

講師：戸村茂樹先生

とき：平成11年12月18,19日 ところ：鷹山宇一記念美術館2階工房



戸村先生と実技指導を受けた受講生の皆さん  
左から菅野さん、下山さん、戸村先生、藤田さん、成田さん、柳沢さん

初日の18日は、受講者20名が参加し、スライド写真や国内外の貴重な作品を見ながら、様々な表現方法を解説していただきました。また、戸村先生の実演により、アクアチントの制作過程を見せていただく機

会にも恵まれ、今まで非常に難解でわかりにくかった銅版画技法を一つ一つ丁寧に解説していただきました。2日目は、初日参加した実技指導希望者の中から、厳正な抽選の結果、5名が選ばれ、アクアチント技法にトライしました。

まず、あらかじめ各自用意してきた下絵を基に、戸村先生と制作方針やその方針に沿った作業工程を検討し制作に取りかかりました。下絵を銅版にトレースし、それぞれの制作方針により作画した版上に松脂の粉末を振りかけ、酸化第二鉄の腐食液に浸します。これを繰り返すことにより複雑なグラデーションが生まれます。こうして個性的な作品が出来上がりました。とりあえず、好評だった銅版画教室も今回で最終回と



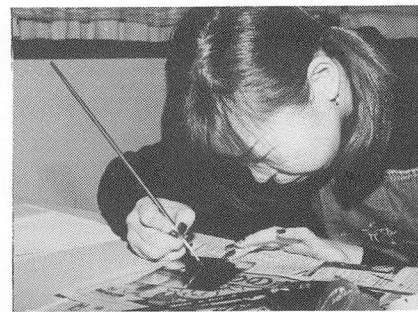
制作方針を検討する受講生



刷り上がりに息をのむ瞬間

※アクアチント [aquatint]  
松脂などの粉末を用いて、版面に顆粒状の凸凹を作り、腐食液に浸す時間を部分的に変えることにより濃淡を表現する技法。

なりました。これまでご参加いただきました皆さん、そして戸村先生、本当に有り難うございました。次回は、より制作に専念できるようなかたちで企画し、またまた戸村先生に無理な相談をしてみたいと思っております。



何者をも寄せつけぬ集中力

## 美術館日誌

### 【12月】

- ◇ 展示替え作業のため臨時休館(11月30日～9日)
- ◇ 鷹山館長田子町で講演会(5日)
- ◇ 町民葬名誉町民故鷹山宇一氏を偲ぶ会開催(10日)
- ◇ 五所川原エルム文化センター37名様来館(11日)
- ◇ 「七彩会」油絵教室開催(12日)
- ◇ 火曜サロン開催(19日)
- ◇ 銅版画教室開催講師戸村茂樹先生(18日～19日)
- ◇ 年末年始の休館日(30日～1月3日)

### 【1月】

- ◇ 七戸町冬休み社会見学会児童76名関係者32名様来館(12日)
- ◇ 「七彩会」油絵教室開催(16日)
- ◇ 火曜サロン開催(16日)
- ◇ 青森県立図書館長鈴木健二氏来館(19日)
- ◇ 友の会主催スペイン・パリ美術紀行出発(19日～29日)

### 【2月】

- ◇ 館内整理のため臨時休館(1日～10日)
- ◇ 節分の豆まきを実施(3日)
- ◇ 火曜サロン開催(8日)
- ◇ スペイン館の展示替え(10日)
- ◇ 板橋区立美術館学芸員尾崎氏来館(12日)
- ◇ 平成11年度第4回友の会役員会開催(18日)
- ◇ 「七彩会」油絵教室開催(19日)
- ◇ スペイン・パリ美術紀行写真交換会開催(20日)
- ◇ ATV「おしゃべりハウス」に鷹山館長、大池学芸員出演(23日)
- ◇ 鷹山館長青森県文化振興会議に出席(24日)

# 油絵教室を終えて



経験のある人から全く初めての人まで、熱心な参加者11名の皆さんとともに、小川敏雄先生の適切なご指導の下、楽しくそして充実した10回の教室でした。また、その成果を七戸町産業文化まつりで発表することができたことなど、大きな喜びとなりました。

教室は終了しましたが、グループ『七彩会』を結成し、引き続き活動しております。

一記念美術館の皆さんに感謝申し上げます。  
『七彩会』代表 盛田 駿造

## 緑の風の中

端村 知子

10月17日、美術館の2階から望む山々は、初雪がみられました。会員の油絵教室に通い始めてから、はや6ヶ月が過ぎました。

春の頃、絵の鑑賞に美術館を訪れ、ロビーでくつろいでいた折、ふと友達が目にした会報を読み、入会をすすめてくれました。《月2回、10名限定、6月から10月までの5ヶ月間、講師小川敏雄先生、受講料なし》の記事に迷わずその場で申し込みました。

入会してみると、盛田典子さん御夫婦が油絵教室の仕掛人と自称して、細々と気を配り、かいがいしくお世話を下さり、頭の下

話やらその他の楽しい話を交えての昼食も、心なごむひとときでした。

美術館や道の駅のない十和田市に住む私にとって副産物的な楽しみは、新鮮な野菜や花をどっさり積んで帰ることです。「楽しんで描きたい。」ということが私の絵を描くことへの強い思いだったので、今回の油絵教室は最も適していたと思います。

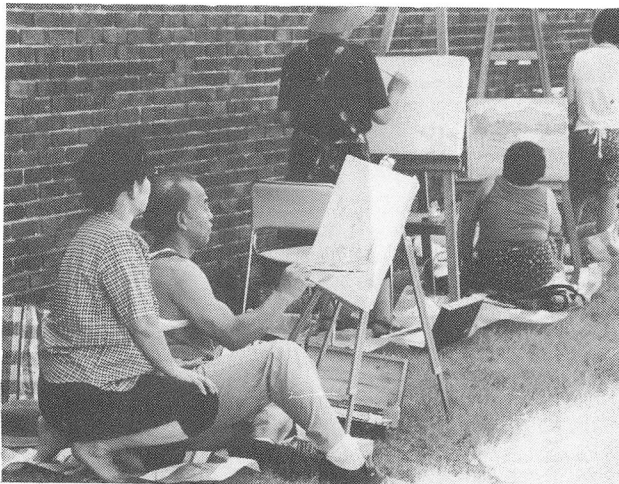
おしまいに、私はこの教室を通して、油絵の他に、人としての生き方を多くのふれ合った方々から学ぶことができたことに、心から感謝しています。

## 自分探しの油絵教室

古屋敷 久美子

10月22日、七戸町文化ガイド講座(公民館)で「兄、父、曾祖父を語る」と題し、ひばり館長さんのお話が聞けると、ワクワクしながら出席しました。まさにひばり館長さんのお人柄は、鷹山画伯の生き方そのものに思え聞き入りました。もう時間いっぱいというその時、様子が急変し、メガネの奥からこぼれ落ちる涙。「今日午後3時、妹から昨日まで元気に仕事に励んでいた父が倒れた」と電話がありました。私はこれから行ってきませぬ。父を思う時、この時間を終えてからという選択は間違っていないと思いません。「私たちは皆、一緒に涙するだけではありません。ただただ回復されることを祈りました。」

6月20日より始められた油絵教室。10月までの全10回、アツという間でした。



美術館の外に出て、日陰で写生した暑い夏の日。

地域に根ざした、開放された美術館……、他にあるでしょうか。どんな言葉が今の私の気持ちを伝えてくれるのでしょうか。

目の前にポーンとお膳(環境)が出されたそのお膳には、温かでお膳(環境)を感じさせるひばり館長さん、その下で何時も笑顔で迎えて下さった職員の方達。限られた予算の中で描きたい人達のために計画して下さった友の会役員の皆様、何にも増して、「私、仕掛人」と口癖のように言っておられる盛田典子先生とご主人。そして小川敏雄先生。先生の教えは「こういう場合はこうなるんではないのかな?」と、ソフトに気付かせて下さいます。先生の筆が入ると魔術のように変容し、それはまるでいくらかでも湧き出る泉のように、絵に息吹を与えて下さいました。

私たちは、なんと素晴らしいお膳を頂戴したことか。そして今私は、まわりの多くの方々に幸を感じています。



七戸町産業文化まつりで作品展を開催(10/30・31)

# 「スペイン・パリ美術紀行」に参加の皆さんからお便りが寄せられました。

## スペイン美術紀行に参加して

七戸町／浜中 尚子

戸締まりは大丈夫かしら、火の用心は？、食事は：。子供一人留守をさせるような余計なお世話と言われる心配をしながら家を後にし、集合場所である公民館へ向かいました。バスの中にはもう殆どの人が集まって居り、いつもの顔馴染みの人初めてお会いする人達で賑やかなおしゃべりが始まっていて、雰囲気はすっかりスペインへ飛んで居りました。七戸の美術館にいつも集まる人その延長がそのままスペインへ向かっているような、また、修学旅行へ出掛けるような気分になり私もアツという間にもうその雰囲気に入り、家のことは何とかなるんじゃないの：と、今迄の心配がすっかり飛んでしまつて居りました。機上の人となり、機内食を食べ、フランス経由でスペインに着きました。スペインの空はあくまでも青く、そして太陽の赤が今でも目に焼きついて居ります。旅は人の心を広くし、そしてなごませてくれると言

われますが、日頃よくよく考えていた事が自然の美しさ、歴史の深さにふれ、何かちっぽけな事と思われました。珍しいスペインの食事を楽しみ、そして本物のガウディ、ダリ、ピカソ、ミロ等々沢山の作品に触れることが出来、美術に疎い私でもとても感動する事が多く、豊かな気持ちにしてくれました。七戸でガウディ展を開催していた時には思つてもいなかったスペイン旅行でしたが、あのサグラダファミリアの螺旋階段をふうふう言いながら登りきった時、ひとしおの感激を覚えました。

本物の美術に浸る共通の目的を持った人達との集まりで、ホッと雰囲気、とても楽しいスペイン美術紀行でした。今回の旅行に参加出来たおかげで良い沢山の思い出が出来ました。お世話になった皆様に感謝して居ります。

## 古稀の旅

青森市／田中 勇

私は体力には自信がなく、それに美術には縁のない方です。でもあまり気がのりませんでしたが、今年はお正月に古稀を迎え、この機会を逃すと何時海外旅行に行けるのか分りませんし、それに七戸町の皆さんと一緒に旅行する気安さもあり、参加しました。

私のスペインのイメージは、闘牛、フラメンコ、カメルン、サグラダ・ファミリア教会、プラド美術館、そしてヒマワリでした。今回

回は「美術紀行」ですので、大分の時間が美術館巡りに当てられました。その中で私が期待していたのは、ピカソの『ゲルニカ』です。この絵は一度レプリカですが福島市で見たことがあり、今回は現物と巡り合うことができた大変感動しました。もう一つは、ガウディです。世界的に有名なサグラダ・ファミリア教会です。あのそそり立つ塔、見事な彫刻など、素晴らしい建物です。塔は頂上近くまで登ることができずので皆さんと一緒に登りました。バルセロナ市内が一望でき美しい眺めでした。また、夜はライトアップされ、幻想的な美しさを見せておりました。

実は今回の紀行で私が一番感動したのは絵画ではなく、マドリッドの王宮で見た、ヴァイオリンの楽器ストラディヴァリウスです。これは世界的に有名なバイオリンで、この時初めて見ましたが、おそらくもう見ることはないでしょう。パリでは、ルーヴルとオペラの両美術館を見学しておりましたが、何回見ても良い絵ばかりです。振り返ると思い出に残る楽しい十一日間でした。友の会の役員の方々をはじめ、一緒に旅行した皆さん、特に同室だった太田さん、大変お世話になり有り難うございました。心からお礼申し上げます。何かまた一緒に旅行できることを楽しみにしております。

## お便りを寄せ下さい

鷹山宇一記念美術館友の会では、会員の皆様のご意見・ご感想を募集し、会報にてご紹介して参りたいと思っております。思い出深い絵、大好きな絵、お薦めのまだ心に残つた国内外の美術館について、そのほか友の会、美術館へのご質問やご意見・ご感想などを、800字程度で自由にお書き下さい。詳しくは事務局までお気軽にお問い合せ下さい。

### 【原稿送り先】

郵便番号、住所、氏名、電話番号をお書きの上、〒03912501

青森県上北郡七戸町 字荒熊内67-94

鷹山宇一記念美術館 友の会事務局 迄

※なお、会報編集の都合上、原稿の一部修正を加えることがありますので、ご了承ください。

## 会員登録の更新について

さて、先号でもご案内申し上げましたが、いよいよ会員登録更新の季節となりました。早速ご更新いただきました皆様、有り難うございます。また、これからお考えの皆様是非引き続きご更新いただき、美術館の事業への協力及び相互学習に取り組んでいただきたいと思います。友の会並びに美術館では、平成12年度も皆様に喜んでいただけるような様々な企画を予定しております。今後ともご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

更新手続きは、美術館窓口、または、下記へ送付しております。郵便振込用紙による方法にて随時受付いたしております。なお、会員の種別と会費並びに特典についてはこれまでと同様です。詳しくは、友の会事務局までお問い合わせ下さい。

TEL 0176(62)5858 (鷹山宇一記念美術館)

## 編集後記

雪が解け、ポカポカ陽気でバック（フキノトウ）まで出てきたかと思つたら、またまた大雪。今冬の青森県内はなんか変な天気です。友の会は今年で6年目を迎えます。運営に関してはまだまだ未熟な点ばかりです。会員の皆様のお力を頂き、一致団結！今年も一年頑張ります。



ライトアップされたサグラダ・ファミリア教会をバックに記念撮影。バルセロナ最後の夜